

企業の理系女性魅力紹介

企業で理系の仕事に携わる女性が、研究開発の第一線で働く魅力や体験を伝える「女子高校生のための女性活躍応援イベント」が1月20、21の両日、東京都目黒区の東京大で開かれた。科学への興味を持ち続け、自分らしい仕事に就くことの大切さなどを確認した。(中根圭一)

主催したのは、大学や大手企業などが2021年に設立した一般社団法人「学びのイノベーション・プラットフォーム」(浦嶋将年理事長)。「科学・技術・工学・芸術・数学の五つを対象にした教科横断的な「STEM教育」の普及活動を進めている。

イベントには、企業の現場で働く女性が登壇。住友化学の伊藤瑛子さん(30)は、社内の研究所でプラスチック包装の材料開



理系の仕事の魅力や進路の選択について語る女性たち(1月21日、東京大で)

発に取り組んでいる。数学が苦手だったが、「化学を学びたい」という夢を抱いて勉強に打ち込んだことや、就職か、博士課程への進学か迷った学生時代には海外研修に参加し、自身の適性を見極めた経緯を紹介した。

JX金属の熊倉紗代子さん(32)は、大学院で電気化学を専攻し、今は1歳の子どもを育児しながら、技術系の営業や電子機器の調査などに励む日々を語った。親からは官公庁への就職を勧められたというが、「自



浦嶋将年理事長

一般社団法人 女子高生向けに開催

分が進みたい分野や就きたい仕事について親とよく話し合うことで、私の意見を認めてくれるようになった」と話した。

総務省の調査では、国内の女性研究者数は22年は17・5万人と増加傾向にあるが、研究者全体に占める女性の割合は17・8%にとどまる。同法人の浦嶋理事長によると、理系で学ぶ女子高校生に対し、保護者は手に職をつける仕事を、という思いから、医学や薬学への進学を勧める傾向が強く、理学や工学の仕事の魅力が十分に伝わっていないという。

浦嶋理事長は「女性は理系が苦手」といった根拠のないアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)が社会全体にある。女性の社会進出には若者に加え、保護者や学校の教員らの意識も変え、女性の理工系への進学を促すことが欠かせない」と話す。